

対策困難箇所事例

事例No.

事例分類

4

変形交差点④

1 危険箇所の状況

■危険箇所の状況

現場は、小学校通学路上の変則六叉路。国道の抜け道として、通過する車両もある。150名ほどの児童が3方向から集まってきて、一つになり、学校へ向かう起点となる場所である。道が細く見通しが利かず、複雑な交差点であるという面で、さらに、多くの児童、中学生や高校生の自転車など、交通が集中するという面で大変危険な状況である。

■通学路地図



■現場写真



①下校時の様子

②北東方面

③南東方面

2 市町村連絡協議会における意見

■道路管理者（市道路維持課）

- ・交差点部分に注意喚起のため、赤色塗装を施工したいと考えている。
- ・150名が通る交差点との接続道路については、外側線を両側に引く方向で検討する。

■警察署

- ・点滅信号をつけるのは難しい。

■その他

- ・ボランティア（高齢）や、保護者の立ち番により、児童の誘導や車への注意喚起が行われている。

■アドバイザー

- ・交差点を赤に染める。
- ・点滅信号があるとよい。
- ・帰宅方向別に下校の順番を変える。（ボランティアの方の誘導の負担を減らす）
- ・交差点を斜め横断していく方向もあるので、学校側で指導をする必要がある。

3 対策（案）

■道路管理者

- ・交差点内、赤色塗装。（本年度中）
- ・変則交差点に接続する道路の両端に白線を引く。（本年度中）

■学校

- ・下校の順序を再考する。（対策済み）
- ・スクールサポーター等に重点的な場所として認識してもらおう。（未定）

対策困難箇所事例

事例No.

事例分類

5

横断歩道のない交差点①

1 危険箇所の状況

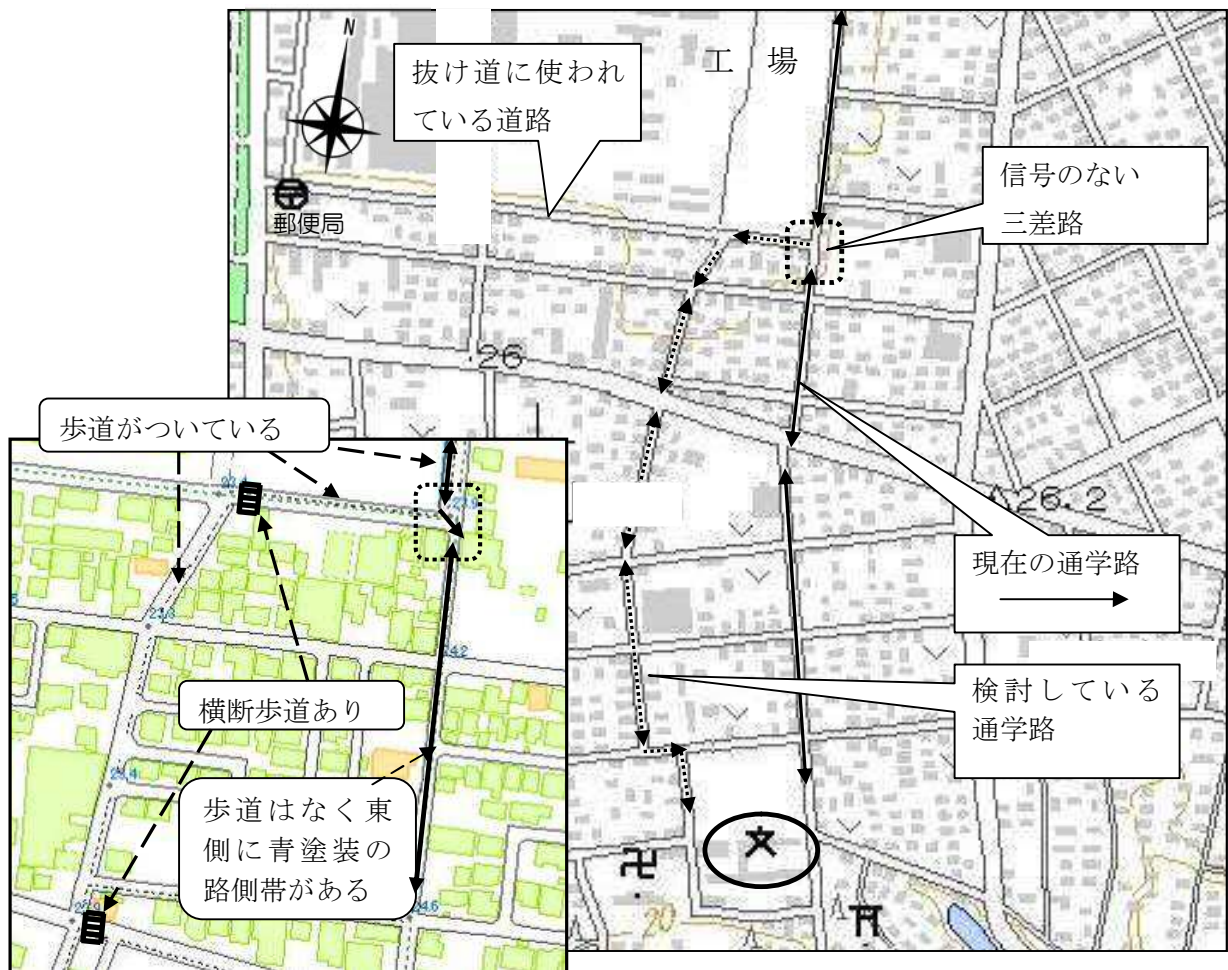
■危険箇所の状況

工場の敷地南東部の三差路。渋滞を避けた車が、西にある郵便局方面から入り込み東に向けて走り、この三差路交差点で右左折して抜けていく。

子どもたちは北方面から工場の東側の歩道を通り、この交差点を横切って青塗装の路側帯がある道路左側に渡って登校する。

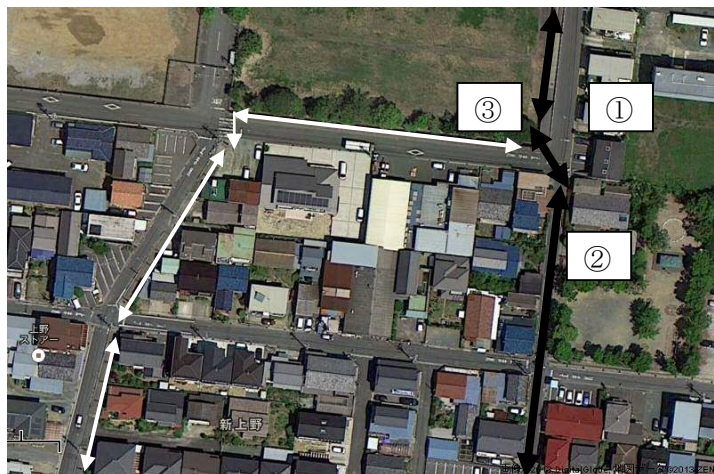
現場は見通しの悪い交差点で道路の横断には危険が伴うが、人の滞留場所もないために横断歩道を設置できない。

■通学路地図

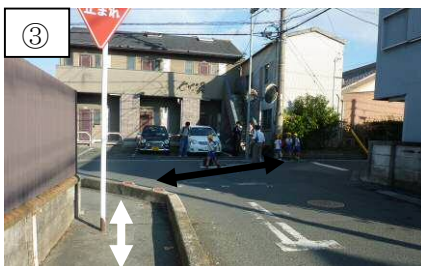


※地図データ 国土地理院「電子国土ポータル」より

■ 現場写真



↔ 現在の
通学路
⇒ 検討中
の通学路、歩道沿
いに設定



2 市町村連絡協議会における意見

■ 道路管理者・警察署

- ・ 区画線の引き直し（実施済み）
- ・ 「止まれ」道路標示の塗り直し。
- ・ 歩行者用の滞留場所の確保の整備が可能であれば横断歩道の設置を検討したい。

■ アドバイザー

見通しの悪い交差点で、信号もなく、抜け道としての交通量も多いので、ここを横断させることは危険と思われる。横断歩道も設置されにくい状況なので、通学路の変更を考えてはどうか。工場沿いに歩道が設置されており、工場通用門の前には横断歩道も設置されている。

3 対策（実施予定）

■ 学校



左写真の白帯部分には、歩道が設置されているので現状の通学路から、歩道のある1本西側の道路に通学路変更する案を、現在、地域・保護者・自治会等と協議をしている。

安全性を含め多面的に通学路としての適正を協議し、通学路変更も含めて検討していく。

※航空写真データ： 国土地理院「電子国土ポータル」より